商工会と行政の支援で生協と提携。仕入れが安定し蘇ったスーパー

支援テーマ
創 経 地 農 販
海 再 承 も 雇
資 持 IT

課題　仕入れ先が見つからない店舗運営が困難に

1920年（大正9年）に鮮魚店として開業した有限会社丸イ新谷商店は、1955年にセルフサービスのスーパーとして法人化を果たし、1994年にミニスーパーへと事業を拡大した。かつて町内には同業者が6店あったが、人口減少や高齢化の影響で次々に撤退したため、現在は妹背牛町で生鮮食料品を扱う唯一の店舗だ。

課題は仕入れにあった。青果・鮮魚は深川公設市場から、米は妹背牛産のななつぼしを仕入れるなど、地元・地域産品の品揃えを重視していたが、深川公設市場が2016年末に閉鎖され、代替えの仕入れルートの確保に苦慮していたからだ。思うように仕入れ先が見つからず、同業者から調達していたため仕入れ価格が高くなり、品揃えも安定しているとは言い難い。このままでは店舗を維持していくことも難しい。適正な仕入れルートの確保が喫緊の課題となっていた。

支援　コープさっぽろからの商品供給で業績改善

安定的な仕入れを実現し、経営力を向上させていくために、妹背牛商工会では専門家の支援も受けながら、労務管理も含め営業全般にわたる指導を行った。2018年4月に隣町の北竜町に食料品店としてオープンした三セク施設の商品供給を「コープさっぽろ」が担っていることから、同事業所でも仕入れ業務提携先を「コープさっぽろ」に絞って打診することを決定。同年6月に「コープさっぽろ」と面談の機会を得て、妹背牛町並びに商工会関係者も同席のうえで、店舗の状況説明と今後の仕入れ支援の要請を行った。

その後の交渉を経て次のような条件が提示された。①組合組織であることから員外利用に際し地域行政からの支援要請が必要、②仕入れ支援を行ううえで「コープさっぽろ」仕様のポスレジ並びにシステムを導入、③仕入保証金の差し入れ。これらの条件を受けて、商工会では行政に対し地域唯一の食料品店の存続に係る支援要請を行うとともに、初期投資に対する資金調達を支援することとし、経営改善計画書を作成したうえで金融機関との折衝も仲介。晴れて「コープさっぽろ」との提携が実現した。

2019年4月の改装オープン後は、仕入れの改善により品揃えは充実し、若年層の客層も増えて売り上げはほぼ目標を達成している。インストア業務の減少により労務の効率化が進み、人件費は減少し、粗利も改善した。POSレジ導入を機に、在庫管理と発注業務を従業員に任せたことで責任感とモチベーションがアップし、店内に活気が生まれるなど相乗効果も起きている。今後は店内調理の惣菜を充実させ、高齢者だけではなく、一人暮らしの若い客層も取り込んでいく。後継者からの発案もあり、酒類の販売業許可も計画している。次の目標はさらなる商圏の拡大だ。

仕入れ先を変更して生まれ変わった

支援の経過

期間	支援内容
2014年11月～2015年6月	北海道農商工連携ファンド事業
2016年1月	消費税転嫁対策等専門家支援
2019年1月～2月、5月	消費税軽減税率対応相談事業を活用した専門家による支援を実施

会社概要

会社名：有限会社丸イ新谷商店
住所：北海道雨竜郡妹背牛町字妹背牛368
電話番号：0164-32-2146
代表者名：新谷達雄
創業年：1920年（大正9年）
従業員数：12名
商工会名・担当者名：妹背牛商工会・高野政弘